

第5学年 体育科学習指導案

2020年10月23日(金)5校時
 第5学年3組男子18名 女子14名 計32名
 指導者

【研究主題】

主体的に取り組み、考える楽しさや上達する喜びを味わうことのできる児童の育成
 ～健康な体をつくるために～

1 単元名

みんなでトライ！タグラグビー(E ボール運動 ア ゴール型)

2 単元の目標

知識及び技能	タグラグビーの楽しさや喜びを味わい、その行い方を知るとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられるようにする。
学びに向かう力、人間性等	運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	タグラグビーの楽しさや喜びを味わい、その行い方を知っていると、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームを行う技能を身に付けている。	ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動に積極的に取り組もうとし、ルールを守り助け合って運動をしようとしていたり、勝敗を受け入れようとしていたり、仲間の考えや取組を認めようとしていたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。
学習活動に即した評価規準	① タグラグビーの行い方について、言ったり書いたりしている。 ② 味方にパスを出したり、ゴールに向かってボールを持ち運んだりできる。 ③ ボールを保持していないときに、ボール保持者からパスを受けられる位置に移動できる。 ④ 相手にタグを取られないように身をかわして走ることができる。	① 誰もが楽しく練習やゲームを行うために練習方法を選んでいる。 ② 練習やゲームを振り返り、チームの作戦や個人のめあてに対して課題を見付けている。 ③ チームや個人の特徴を理解し、作戦を立てたり、工夫した動きを考えたりしたことを伝えている。 ④ タグラグビーのルールに応じた動きを工夫している。	① 仲間のよさを認め合い、励まし合いながら、運動に積極的に取り組み、練習やゲームを行おうとしている。 ② ルールを守り、勝敗を受け入れながら、練習やゲームを行おうとしている。 ③ 運動する場や用具の使い方などの安全に気を配っている。

4 運動の特性

① 一般的特性

- ・味方とのパスワークやランプレーで守備をかわしながらボールを運んだり、タグを取り相手チームの攻撃を防いだりして、作戦を工夫して得点を競う、ゴール型(陣取り型)の運動である。
- ・瞬発力や持久力など多くの運動要素を含み、様々な体力が向上する運動である。

② 児童から見た特性

- ・タックルの代わりにタグを取ることで守ることができ、接触が少ないので安心してプレーができる運動である。
- ・ボールを手に持って自由に走り回れるため運動量が豊富な運動である。
- ・ドリブルをする必要がなく、運動が苦手な児童でも参加しやすい運動である。
- ・チームで協力することによりボールに触る回数が増えたり、全員に得点のチャンスがあったりする運動である。
- ・チームの作戦を工夫し、ゲームに生かすことができる運動である。

5 目指す児童像

【知識及び技能】

- ボール操作
 - ・フリーの味方にパスを出したい。
- ボールを持たない時の動き
 - ・ボールを持っている味方と自分の間に誰もいないように動きたい。
 - ・ボールを持っている敵とゴールの間に入って、得点を防ぎたい。
 - ・得点しやすい場所に移動して、パスを受けて、ゴールしたい。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・みんなが楽しく参加するためには、どうしたらいいかな。(ルール)
- ・自分のチームには、どの作戦が適しているかな。
- ・協力し合うためには、上手に伝えることが大切だな。



【学びに向かう力、人間性等】

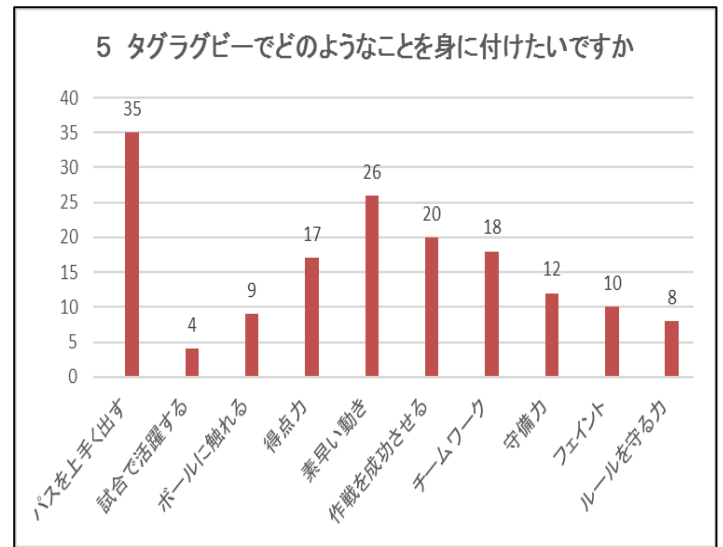
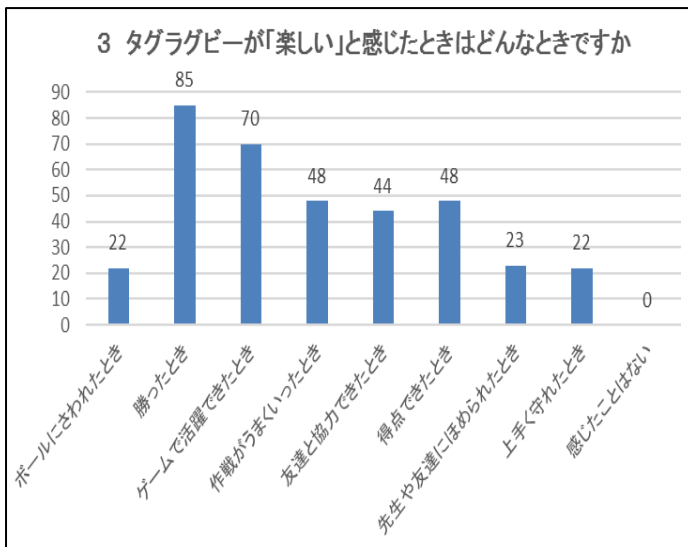
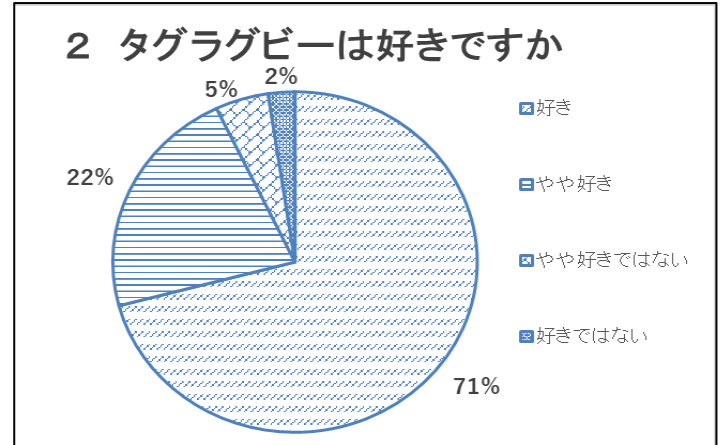
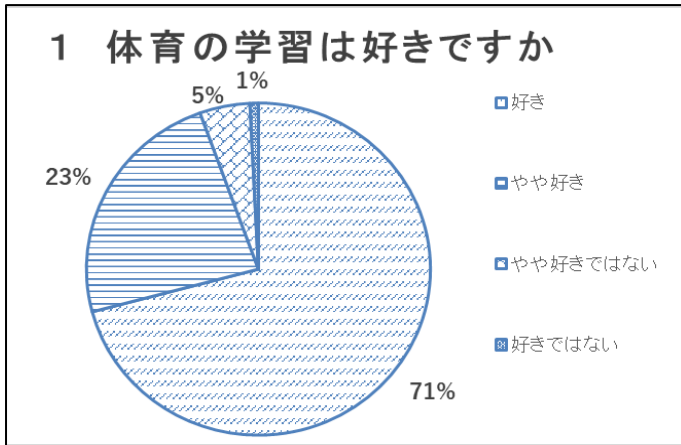
- ・積極的に運動しよう。
- ・仲間と助け合いながら、頑張りを認めよう。
- ・勝敗は受け入れなくちゃ。
- ・準備・片付けはきちんとやって、安全に活動しよう。

6 運動の系統性 文部科学省 小学校学習指導要領解説 (H29年告示) 体育編 P178 より

		低学年	中学年	高学年	中学校
ボ ー ル ゲ ー ム	ボ ー ル 操 作	<ul style="list-style-type: none"> ◇ねらったところに緩やかにボールを転がす、投げる、蹴る、的に当てる、得点する ◇相手コートに緩やかにボールを投げ入れたり、捕ったりする ◇ボールを捕ったり止めたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ◇味方へのボールの手渡し、パス、シュート、ゴールへのボールの持ち込み 	<ul style="list-style-type: none"> ◇近くにいるフリーの味方へのパス ◇相手に取られない位置でのドリブル ◇パスを受けてのシュート 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ゴール方向に守備者がいない位置でのシュート ◇マークされていない味方へのパス ◇得点しやすい空間にいる味方へのパス ◇パスやドリブルなどでボールキープ
	ボ ー ル を 持 た な い と き の 動 き	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースへの移動 ◆ボールを操作できる位置への移動 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボール保持時に体をゴールに向ける ◆ボールの保持者と自分の間に守備者がいないように移動する 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボール保持者と自分の間に守備者が入らない位置への移動 ◆得点しやすい場所への移動 ◆ボール保持者とゴールの間に体を入れた守備 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボールとゴールが同時に見える場所での位置取り ◆パスを受けるために、ゴール前の空いている場所への移動 ◆ボールを持っている相手のマーク

7 児童の実態

【1】実態調査 ※質問3～6は複数回答を可とし、3つまで回答してよいと指示した。



【2】考察

質問1「体育の学習は好きですか」、質問2「タグラグビーは好きですか」では、どちらも9割以上の児童が「好き」「やや好き」と答えており、5年生は運動に対して肯定的な児童が多いことが分かる。質問2の回答に対する肯定的な理由では、「楽しいから」「協力できるから」「ボール運動が好きだから」「得点したとき嬉しかったから」の理由が中でも多く上がった。一方で、タグラグビーが好きではない児童の意見は「苦手だから」「活躍できないから」という意見があった。本学年は第3学年で町田ボール、第4学年で町田ボールを発展させたタグラグビーと、毎年この運動の特性のよさに触れて活動してきているため、肯定的な意見が多く出たと推察する。その反面で苦手意識を拭いきれない児童もいるため、今年度のタグラグビーでは一人一人が活躍できるような手だてを取っていく。

また、「タグラグビーが楽しいと感じたとき」についての質問では、「勝ったとき」「ゲームで活躍できたとき」の回答が多く、次いで「得点できたとき」「作戦がうまくいったとき」「友達と協力できたとき」となった。逆に「楽しくないと感じたとき」についての記述回答では、「勝てない」「ルールを守らない」「得点が入らない」が多かった。高学年となり、勝利へのこだわりを強く感じている児童が多いことが分かった。

質問5「タグラグビーでどのようなことを身に付けたいですか。」では、「パスの上達」「素早い動き」「作戦を立てる」の意見が多く出た。楕円型ボールは普段扱わないため、パスの上達を求める声が上がったと思われる。作戦を立て、その中で素早く動くことを大切にさせたい。

昨年度はチームワークを重視してタグラグビーに取り組んできたので、今年度はアンケートの結果も踏まえて、全員が活躍できる手だてを考えていく。具体的には、ルールを工夫することやチームに合った作戦を立てさせることなどが挙げられる。その中で、チームの特性を感じたり、自分の得意を見付けたりしながら、得点に絡むような意識をもたせる働きかけをする必要がある。

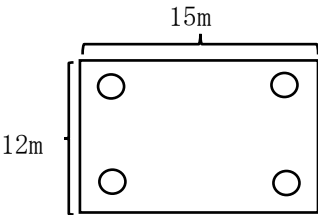
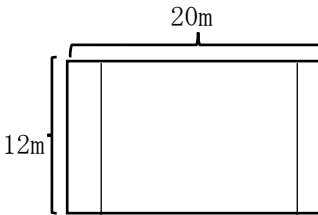
8 研究主題にせまるための手だて

第5学年・音楽科分科会では、研究主題「主体的に取り組み、考える楽しさや上達する喜びを味わうことのできる児童の育成～健康な体をつくるために～」を受けた3つの目指す児童像のうち、「主体的に運動に取り組む児童(学びに向かう力、人間性等)」「上達するために考えたり工夫したりする児童(思考力、判断力、表現力等)」に主眼を置いてタグラグビーの授業を計画した。

主体的に取り組むために

(1) タグラグビーの簡易化されたルール

ラグビーのルールをそのまま小学校の体育で実践しても、全ての児童が運動の特性を味わうこと、技能を身に付けること、そして何よりも運動を楽しむことは難しい。また、本学年の児童は第3学年時に「町田ボール」、第4学年時に「町田ボールを発展させたタグラグビー」に取り組んでおり、実態や系統性に即して簡易化された初めのルールを設定し、どの児童も主体的に運動に取り組むことができるようにした。

町田ボール	タグラグビーのルール	ラグビー（7人制）のルール
<ul style="list-style-type: none"> ボールを持った相手を止めるためにタグを取る。 児童が持ちやすい大きさの楕円球を扱う。実態によっては、通常の球体ボールでも可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ボールを持った相手を止めるためにタグを取る。 児童が持ちやすい大きさの楕円球を扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> ボールを持った相手を止めるためにタックルをする。 ラグビーボール(○号球)を扱う。 ※「ラグビー」という文言は、高等学校学習指導要領で初出する。
<ul style="list-style-type: none"> コート幅 12m×15m 人数 4対4 コート内の円の中に入ってパスをもらったら得点。 	<ul style="list-style-type: none"> コート幅 12m×20m 人数 4対4 ゴールゾーンに走り込んだら得点。(ボールを置いてトライ) 	<ul style="list-style-type: none"> コート幅 縦70m×横100m 人数 7対7 ゴールゾーンへのトライ、キックゴール。
<ul style="list-style-type: none"> ゴールがコートの四隅に設置され、中央からどの方向にも攻撃ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手陣地に向かって攻撃する。 前方へのパスは禁止。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手陣地に向かって攻撃する。 前方へのパスは禁止。

(2) より多くの児童がゴールする経験を味わうことができるルール

ボール運動領域で、児童が最も「楽しい」「うれしい」と実感できる瞬間はゴールをしたときであると考えられる。これは、児童の実態アンケートでも多くの児童が「得点したときに楽しい」と感じていることから分かる。そこで初めのルールを児童に提示した上で、「全員が得点するために何が必要か？」児童にも声をかけながら、柔軟にルールを工夫できるようにした。

想定されるルールの工夫	期待される効果
・赤白帽子の活用	○誰が得点したかが分かる
・全員得点ボーナス	○全員が得点することへの動機付けになる
・相手陣地に入ったら、攻撃側は1人コートに入れる。	○攻撃側が数的有利になり、得点チャンスが増える
・ゲーム中の児童の困り感に対する解決策	○全員がゲームを楽しむことにつながる ○フェアプレー精神を学ぶことができる

(3) 補助運動や練習の工夫

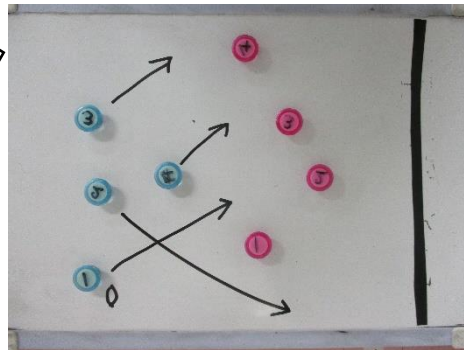
ボール運動領域ということ、児童一人一人がボールに触れたり、ゴールに関与したりする機会をできるだけ多く確保したい。そのために、補助運動と練習する時間を毎時間確保した。楕円型のボール操作はもとより、「前方にパスができない」「ボールを持って走って仲間と共にゴールを目指す」という特性を味わわせること、「ボールをもらったらどうするとよいか」「ボールを持たない時にどのように動けばよいか」について考え、練習し、ゲームに生かすことができるように単元指導計画を工夫した。

考える楽しさや上達する喜びを味わうために

(1) 学習カード、作戦ボードの活用

個人の変化を記録する学習カードと、ゲーム中の動きを視覚化できる作戦ボードを活用した。自分たちのゲームを振り返り、次のゲームに生かすこと、学習中により具体的に話合うことができるようにした。

- 各チーム1枚作戦ボードを用意する。
- マグネット・ペンを用意し、ゲームの振り返りや、次のゲームに生かすこと、作戦等をチーム内で共通理解できるようにする。



(2) 作戦の提示

小学校学習指導要領解説体育編 (H29告示)P143には、「自己やチームの特徴に応じた作戦を選ぶこと」と表記されていることから、高学年のボール運動とはいえ作戦を自分たちで考えたり、生み出したりすることは難しいと考えた。そこで、「攻撃」を重視した作戦をいくつか例示し、子供たちがゲームに生かすこと、作戦を実行することでよりゲームを楽しんだり、考えを深めたりできるようにした。

主な作戦例 ◆ ボール ○ 味方 ● 相手 → 人の動き - - -> ボールの動き

攻める方向

クロスする瞬間にパスしよう!

◆クロス作戦
味方と動きをクロスさせ、すれ違いざまにボールを渡して相手を惑わす。

パスをもらおうと見せかけて...

◆おとり作戦
クロス作戦の応用で、「おとり」の動きを使って相手を惑わす。

攻める方向

◆とばしパス作戦
3人以上が横並びになり、隣の友達をとばしてパスをする。

◆ブラインド作戦
複数の味方と左右どちらかに動くかを決め、1人だけ別の方向に動いて相手を惑わす。

9 単元指導計画と評価規準 全6時間

時	1	2	3	4(本時)	5	6	
段階	知る	高める①		高める②		楽しむ	
学習活動	1 集合・整列をする 2 挨拶をする 3 めあて・学習内容の確認をする 4 準備運動をする 5 補助運動をする ○タグ取りゲーム ○1対1タグ取り ○通り抜け鬼						
	6 ボールを使った練習をする ○円形パスゲーム ○ランニングパス ○鳥かご4対2 ○2対1 ○3対2			6 チーム練習に取り組む ○自分たちのチーム、作戦に即した練習に取り組む			
	7 試しのゲーム①をする		7 ゲーム①をする ○前半3分 - 交代・作戦タイム1分 - 後半3分で1ゲームを行う ○対戦表を作成し、どのチームが、どこで対戦できるかを視覚的にわかるようにする ○第6時までに全チームと対戦できるようにする				
	8 集合・整列をする 9 シェアリング①をする ○試しのゲームで考えたこと、次のゲームに生かしたいことを中心に問いかける 10 整理運動をする 11 挨拶をする		8 シェアリング①をする 9 試しのゲーム②をする。				
			9 ゲーム②をする ○ボールを使った練習・ゲーム①・シェアリング①がゲームに生かしているかを課題として意識させる ○単元が進むにつれて、よりチームとしての作戦や、得点するための工夫についての言葉かけを増やしていく				
		10 集合・整列をする 11 シェアリング②をする 12 整理運動をする 13 挨拶をする					
評価規準	知	①	②	②		④	②③
	思		④	②	①②	③	
	態	②③					①

10 本時の学習(6時間扱いの4時間目)

※雨天時は、8 シェアリング①
9 ゲーム② を体育館で行う。

(1) 本時の目標

【思考力, 判断力, 表現力等】誰もが楽しく練習やゲームを行うために練習方法を選んでいる。

チームや個人の特徴を理解し、作戦を立てたり、工夫した動きを考えたりしたことを伝えている。

(2) 展開

	学習活動	・指導上の留意点 ■評価規準(評価方法) ☆児童のつまずきに対する言葉掛け「 」・手だて
導 入	1 集合・整列 2 挨拶をする。 3 めあて・学習内容の確認をする。	・キャプテンを先頭にチーム毎に整列させる。 ・学習の流れを事前に確認することで、素早く動けるようにする。
	チームに合った練習を生かして、ゲームを楽しもう。	
	4 準備運動をする。 5 補助運動をする。 ○タグ取りゲーム 6 チームタイムを行う。 ○チームでゲームに向けた練習を選択して取り組む	・本時でよく使う部位を中心にほぐすように声を掛ける。 ■誰もが楽しく練習やゲームを行うために練習方法を選んでいる。 ☆チームで行う練習が分からない。 「チームで得点をとるために、どのような練習が必要ですか。」 (行動観察)
展 開	7 ゲーム①をする。 前半 3分 交代・作戦タイム 1分 後半 3分 8 シェアリング①を行う。	・対戦相手と場所が分かるように、視覚的に明記しておく。 ☆ハーフタイムで何をすればよいか分からない。 「作戦ボードを使って、チームの作戦を確認してみよう。」 ☆何を話せばよいか分からない。 「自分たちの作戦を振り返ってみよう。」 「上手くいった(いかなかった)のはどうしてかな。」 「次のゲームに向けて、作戦を選んでみよう。」 ・児童の動きやチームの協力を価値付けたり、次の動きを促したりすることで、思考しながら動けるようにする。
	9 ゲーム②をする。 前半 3分 ハーフタイム 1分 後半 3分	・シェアリング①がゲーム②に生かされているところを中心に価値付ける。
ま と め	10 集合・整列をする。 11 シェアリング②を行う。 (1) シェアリングが生かされたこと (2) 次の時間に生かしたいこと 12 整理運動をする。 13 挨拶をする。	■練習やゲームを振り返り、チームの作戦や個人のめあてに対する課題を見付けようとしている。(学習カード・発言) ☆何を話せばよいか分からない。 「〇〇さんの動きが得点につながったね。」 「今日のチームのめあては何でしたか。」 「作戦はゲームで生かされましたか。」 ・めあてに即した振り返りをする。 ・本時でよく動かした部位をほぐすように声を掛ける。

タグラグビー

ノーサイドの精神で

ゲームが終わることをノーサイドといいますが、勝っても負けても、あく手しておたがいの健闘を「がんばったね」「ありがとう」と、たたえ合う姿がかっこいいですね。

とくでん

<得点の方法>

○インゴールのどこでもいいから「トライ」と叫び、頭上にボールを上げる。

<攻める方法>

- ボールを持ってゴールに向かって走る。
- 前にパスはできない。
- タグを取られたら、味方にパス。
- 1回の攻めで、3回タグを取られたら相手ボール。
- タグを取られたら、パスのあとに返してもらいに行く。

(タグを返してもらい、腰に付けないと次のプレーはできない。)

<守る方法>

○ボールを持った相手選手のタグを取る。「タグ」と叫び、頭上にタグを上げ、その場で止まる。

※タグを取ったら、相手に手渡しで返さないと次のプレーはできない。

こうしゆ

<攻守交代>

- ※コート中央から相手ボールで再スタートする。
- ボールを持っている相手選手とぶつかったとき。
- 1回の攻撃で3回相手にタグを取られたとき。
- ボールを前に落としたり、前に投げたりしたとき。
- 得点を決めた(決められた)とき。

※その場所から相手ボールで再スタートする。

○パスカットをしたとき。

○タッチラインから出てしまったとき。

<タグラグビーの約束>

○ぶつかるとは禁止

(タグを取る手をはらう、タックルする、相手をたたいたりけったりする、相手をつかむ…など。)

○タグを取ったら、必ず手渡しで返す。

○タグの後の最初のパスやタッチラインからのパスは、パスカットできない。

<その他>

- ゲームのはじめと得点を入れた後の再スタートは中央からはじめる。(パスの1本目はパスカットできない。)
- 1ゲーム 前半3分 - 1分 - 後半3分 で行う
- 4対4でゲームを行う。必ず前半が後半で全員がゲームに出場する。